

天津視察・北京訪問 報告書

(2018年1月29日～2月2日)

2018年2月11日

魏 亜玲

◆はじめに

・今回の天津視察について

日本ビジネスインテリジェンス（BIS）協会の主催で、中国側の引き受ける天津市商務委員会からの要請に基づき、中川十郎会長を団長として、東京家政大学の中村信也教授、小松電機産業株式会社の小松昭夫社長、エコパラダイス株式会社の海野貴志社長が顧問として総勢18名が参加されていた。

今回の視察に先立って、2017年5月15日にジェトロと天津市人民政府との間で業務協力による覚書（MOU）が締結されている。締結に際してジェトロの米谷光司理事は、天津市人民政府の趙海山副市长と会談が行われ、同副市长より、製造業分野をはじめとするこれまでの日本企業による天津市への貢献を評価するとともに、ジェトロとの関係強化を通じ、物品の取引に止まらず日本が長い経験を持つ環境分野や高齢産業分野等のサービス分野においても、日本との経済協力への拡大を希望された。これに対して米谷理事から、賛同の意向を示され、高齢産業を含むサービス業納等に協力関係拡大が期待できるとの表明がなされた。

具体的には次の産業を重点対象とした企業間交流の強化、投資の拡大促進

1. 環境配慮型、スマート製造、装備製造などのハイエンド製造業
2. 高齢産業、越境EC等の現代サービス業
3. 中国（天津）自由貿易試験区の政策を活用した製造業
4. 科学技術型企业、研究開発機構、優れた中小企業

知的財産権の活用および保護事業の積極的推進

双方のビジネス環境の高度化

これらのワーキング・グループとして今回の引き受け単位である天津市商務委員会の名前が挙がっている。そこでBISとしては、この大きな流れに乗るためにも今回の視察団の中核であった医療健康研究部会以外に新エネルギー研究

部会やベンチャー企業研究部会があり、これらの研究部会との連携を深める体制で今後は包括的に対応したい。またプロジェクトの内容や支援企業によってはジェトロとのコラボレーションも視野に入れながら今後は進めていく所存とのことである

※天津市健康医療区視察団長挨拶

団長 日本ビジネスインテリジェンス協会理事長 中川十郎 様

今回の天津市・健康医療区視察に際しましては天津市商委・愛国主任様他関係の皆様に変お世話になり感謝いたしております。本年は日中外交樹立40周年の記念すべき年で、日中の友好、経済協力がますます強化されることを祈念いたしております。

今回は日本に於いて過去27年、経済経営情報を研究しております日本ビジネスインテリジェンス協会幹部9名と、当協会顧問の小松電機社長ならびに人間自然科学研究所理事長の小松昭夫氏が協賛いただき、その関係者9名の合計18名が参加いたしております。

この機会に天津市と日本との友好促進、経済、医療関係の強化に努力したいものと覚悟を新たにしております。これを機会によりしく御指導、ご協力を御願いたします。

少子高齢化が進む日本では健康医療福祉への関心が高まっております。これらの分野で天津市と日本との協力をさらに強化したいものと存じます。日本ビジネスインテリジェンス協会では過去10年間、健康医療情報の国際的な研究を行い、これまで国際融合医療協会、国際アユルベーダ医療融合協会に協力してまいりました。今般当協会創立27周年を記念して、国際伝統・新興医療融合協会を設立し、西洋医療と東洋医療の融合の国際研究を強化することになりました。この機会に天津市政府におかれても当協会との研究強化にご協力いただきたいと希望いたします。特に天津市とは、少子高齢化に備えて、日本での健康診断、医療観光促進などに協力したいと思っております。

幸い、世界保健機構（WHO）では本年6月をめどに「国際疾病分類」（ICD）に伝統的な東洋医学の章が追加される見通しです。100年以上、西洋医学一辺倒だった世界の医療基準の転換点になるとともに日本、中国の伝統医療の再評価につながると思われま

す。これは東洋医学にとり画期的なことであります。古代中国に起源がある中医は日本では漢方として発達。また鍼灸も日本の奈良時代に日本に伝えられ、日本の漢方と中国の中医、気攻は非常に関係があります。対処療法する西洋医学に対し、東洋医学では全身のバランス、自然治癒力に注力し、全体医療いわゆる Holistic 医療を志向しております。

今後天津市とは現在話題になっているテラヘルツ・ヴァージンココナツオイル、アユルベーダなど先端東洋医学の分野でも関係を強化したいと希望しています。

そのほか健康食品、健康機器、農業新技術、空気、水洗浄装置など各分野の専門家も参加しておりますので、これらの分野でも天津市と日本との技術協力が強化されることを期待いたします。そして一件でも具体的な商談が結実することを祈念いたしております。

どうぞよろしくご協力、ご指導のほどお願いいたします。

最後に今回の天津市訪問に際してご協力いただいた関係各位に厚く御礼申しあげます。

謝 謝 ！

※日本ビジネスインテリジェンス（BIS）協会

会長の中川十郎様は、総合商社に33年勤務・副社長。その後専門分野における最先端の情

報研究会などの場での会員同士の研究をすすめることによるニュービジネスの創出を目的として、1992年に日本ビジネスインテリジェンス協会を設立。以来25年にわたり、研究会を継続、政財界の各方面の専門分野の会員が現在も交流を深めています。

詳細：<https://bisj.org/profile/>

※天津について

天津は隋代に大運河が開通し、南運河と北運河の交差点の三会海口（現在の金鋼橋三岔河口）がその発祥である。中唐以降は南方からの食糧輸送基地となり、金代には直沽寨、元代には海津鎮が設置され、食糧輸送以外にも軍事拠点としての要衝とされた。

1400年（建文2年）、朱棣（明太祖第四子、明第3代皇帝、永楽帝）が兵を率いて南下、皇位を篡奪すると、皇帝が河を渡った場所を意味する天津の地名が初めて登場した。

1404年（永楽2年）、軍事基地としての衛が設置され、翌年には天津左衛が、更に2年後には天津右衛が設置された。清代の1652年（順治9年）に三衛が統合され天津衛とされ、1725年（雍正3年）に天津州、1731年（雍正9年）に天津府と改称され、天津府の下部に天津県、静海県、青県、南皮県、塩山県、慶雲県、滄州を管轄した。清末には天津は直隸総督の駐在地とされ、李鴻章や袁世凱による洋務派の拠点となった。

1858年（咸豊8年）、アロー戦争（第2次アヘン戦争）で英仏連合軍に敗北し、天津条約が締結された。次いで締結した北京条約で1860年（咸豊10年）に天津は開港され、以後北京の外港として急速な発展を見た。このため19世紀後半から20世紀前半にかけて、イギリス、フランス、アメリカ、ドイツ、オーストリア＝ハンガリー、ベルギー、イタリア、ロシア、日本が相次いで租界を設置し、中国で最も租界の数が多い都市となった。1900年（光緒26年）義和団の乱では8カ国連合軍が天津より上陸し、北京を占拠している。

中華民国が成立すると1927年（民国16年）に天津市に昇格、その後の日中戦争では1937年（民国26年）より1945年（民国34年）まで日本軍により統治され、戦後は1945年から1947年（民国36年）までアメリカ軍基地が設置されていた。

1949年に中華人民共和国が成立すると天津は直轄市に指定され、中国の工業及び貿易の拠点として発展し現在に至っている。

※<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E6%B4%A5%E5%B8%82>

・天津位置

天津市は、中華人民共和国に位置する直轄市。国家中心都市の1つ。環渤海湾地域の経済的中心地であり、中国北方最大の対外開放港である。首都北京市とは高速道路、高速直通列車、京津城際線によって2 - 0.5時間以内で結ばれている。もとは海河の河港であったが、河口の塘沽に大規模な港湾やコンテナターミナル、工業地帯が形成されている。

・気候

1月の平均気温は-3.2度、7月の平均気温は26.5度、年平均気温は12.8度、年降水量は544.3mmである。

・自然資源

天津は土地、石油、海塩、鉱物、地熱など豊かな自然資源に恵まれている。

・人口、民族

2010年末まで、天津の常住人口は、1299.29万人、うち都市と農村部の町の人口は、1033.59万人、農村人口は、265.70万人である。天津は多民族の居住地であり、中国の56民族のうち、50民族が住む。人口が最も多いのは漢族で、全人口の97%を占める。その他の49少数民族の人口は約30万人である。

・天津市と日本の友好都市

△兵庫県神戸市（1973年6月24日）

△三重県四日市市（1980年10月28日）

△千葉県千葉市（1986年5月7日）

△北海道函館市（2001年10月18日）

△天津市和平区

△兵庫県播磨町（1993年3月25日）

△天津市薊県

△福島県西郷村（1995年4月26日）

・宗教

天津は、多宗教都市で、現在、カトリック、プロテスタント、イスラム、仏教、道教の5大宗教の信者が約43万人であり、聖職者は260人である。人々は自らの信仰に基づき、宗教活動を行っている。

・経済

天津は、渤海経済圏の中心に位置し、区域の経済発展と中国経済発展のなかで重要な地位を占める。2010年、全市のGDPは9000億元人民元を超え、対前年度平均成長率は17%である。都市住民の平均可処分所得は24293人民元、社会消費品小売総額は、2903億人民元、貿易輸出入総額は、822億米ドルである。2010年末まで、世界500強ランキング企業のうち、143企業が天津に投資している。天津は、中国においてももっとも投資誘致力があり、投資回収率をもっとも高い地区となっている。

・北京訪問について

昨年7月、「中国全民族抗戦勃発80周年記念&国際二戦博物館館長フォーラム」に招待していただき、当財団の磯江公博監事代読による「世界平和事業構想」の発表、そして中英露三か国語訳書籍に掲載いただいた。この招待参加に御礼するとともに門番、水神、平和事業の世界展開をするため人民東方出版媒体と一緒に6月北京で小松社長の「経営理念手帳」と「経営の道」という書籍発表会&日中友好条約提携40周年記念というイベントの準備の一環として当方の平和事業構想への記念館からの協力確認、出版社関係者との打ち合わせである。

◆スケジュール

- 1月28日(日) ホテルJALシティ羽田東京へ移動、前泊
- 1月29日(月) 東京~天津へ移動、到着後、天津市商務委員会訪問
- 07:10(羽田)→09:55(北京、実際1時間遅れ)へCA422で移動
- 12:00~北京空港から天津へ車で移動
- (飛行機遅れのため、昼食は車内でサンドイッチ、おにぎり1個ずつ)
- 15:40 ホテルチェックイン(天津濱江凱隆酒店)
- 16:00~18:00 天津市商務委員会訪問、座談会
- 18:30~20:30 天津市商務委員会、張愛国主任会見、晩餐会
- 1月30日(火) 天津経済技術開発区、天津市第三病院視察
- 08:30 天津経済技術開発区(TEDA)訪問、
- 10:30 中国(天津)自由貿易試験区(DFTP)、天津東疆保税區訪問
- 12:00 天津経済技術開発区職員食堂にて昼食
- 14:30 天津東疆保税區天津港視察
- 15:30 天津市第三中心病院視察見学
- 16:30 天津市南開区政府訪問、座談会
- 18:30 天津市南開区政府より夕食会
- 1月31日(水) 西青区縁吉医院、天津経済技術開発区 視察
- 10:45 天津市西青区縁吉医院考察
- 11:00 座談会
- 12:00 昼食会(天津市西青区縁吉医院 院長よりご招待)
- 15:00 天津市華北区巷肆創意産業園見学
- 16:00 天津市華北区商務委員会と交流会
- 18:00 華北区商務委員会より夕食会
- 2月1日(木) 天津~北京へ移動、蘆溝橋記念館、センサー会社、出版関係者打合せ
- 06:20~高鉄(新幹線)で天津から北京へ移動
- 09:00 北京長富宮飯店荷物預け
- 10:00 北京蘆溝橋記念館訪問、見学

- 12:00 北京蘆溝橋記念館職員食堂で記念館より昼食
 16:00 北京市水位計センサー会社訪問
 18:30 人民東方出版媒体の呉主任、王様、張加喜先生、出版打ち合わせ、
 夕食会

2月2日（金）「和の研究会」と懇談御、帰国へ

- 10:00 「和の研究会」（共生文化研究会）メンバーと交流
 12:00 昼食会
 14:00 ホテルから北京空港へ
 17:20 北京から羽田へ帰国、CA183 便
 22:30 羽田着（実際1時間ほど遅れ）

2月3日（土）各自、ご自宅へ戻り

◆メンバー 18名

【小松電機グループ 9名】

- 小松昭夫 小松電機産業株式会社代表取締役、一般財団法人人間自然科学研究所理事長
 松岡真功 株式会社 BlueMeme 代表取締役
 佐野 馨 知財支援コンサルタント、島根県発明協会登録専門家、農水省6次産業化プランナー
 磯江公博 株式会社エナテクス 常務取締役、一般財団法人人間自然科学研究所 監事
 永島邦子 株式会社農協観光 島根支店 主査
 細木由里子 オフィス由 小松電機産業沖縄プロジェクト：プランニングアシスタント
 李 暁明 大連天億機電設備控制有限公司 代表取締役
 尹 熙竣 コマツコリア株式会社 代表理事
 魏 亜玲 小松電機産業株式会社 営業部、一般財団法人人間自然科学研究所 理事

【SIB グループ 9名】

- 中川十郎 日本ビジネスインテリジェンス協会理事長、名古屋市立大学 22世紀研究所
 特任教授、元米国ニチメン・ニューヨーク開発担当副社長、グローバルマー
 ケット開拓専門家、【団長】
 伊藤 正 イトウソリューション&コンサルタント社長、元岩谷産業北京、大連事務所
 長：マーケティング専門家【副団長・事務局長、BIS(日本ビジネスインテリ
 ジェンス協会)理事・事務局長】
 中村信也 東京家政大学教授、医学博士、整形外科医、法学士= 整形外科、栄養学、
 薬膳、小説家【訪問団顧問】
 海野貴史 エコパラダイス社長、環境、医療関係専門家(温熱療法、室内清浄システム
 発明家、環境農業開発、水浄装置など)、【訪問団顧問】
 小野共幸 エコパラダイス海外事業部長【訪問団事務局次長】

霜島清子 茶道教授、不動産会社元社長、【BIS 文化担当理事】
小林洋子 東京家政大学・中村信也教授秘書長、気功専門家
安井貴史 Worl A-Investment 社長【海外投資】
劉 峰 現代経済研究所所長、京進・中国総代表【BIS 国際理事、現地参加、訪問
団現地アドバイザー】

◆視察、訪問の概要について

1、一日目 天津視察

1月29日 16:00~18:00

商務委員会蔵処長が司会され、懇談会を開催。
商務委員会の以外に天津市の教育委員会、建設
委員会（趙処長）、衛生計画委員会（高処長）、
労働局、経信委員会、農業委員会（劉処長）な
どもご参加されていた。

主に「環境、健康、高齢者産業」について議論
されていた。

視察メンバー霜島様より日本の漢方薬の原材
料が不足で、天津から輸出できないかとの質問
されたことに対して、輸出可能、日本側の受け
入れさえできればと回答される。

天津には天津中医薬大学という漢方薬の有名
な大学がある。学長が中医学の成分研究者で米
国、オーストラリアへも輸出している。シンガ
ポールと提携、2008年エコシティプロジェクト。

天津には6000社余り企業、主に中国国内市場へ提供。



・天津商務委員会 会議室



・天津商務委員会 入口

2、二日目 天津視察（1月30日、火）

1）08:30 天津経済技術開発区（TADA：泰達）訪問

1984 設立、1986 年鄧小平来訪、「開発区大有希望」との書がかかれていた。エリア
面積 450k m²、中国国内 160 以上ある開発区の中で TEDA は歴史が一番長い。

・基幹産業

- ① 自動車（一番大きな産業、トヨタ、長城自動車、フォルクスワーゲン）、
天津の 96%の生産が TEDA トヨタ、
フォルクスワーゲン等、パーツ提供会社 200 社以上。

- ② 電子産業（サムソン、松下、ハネウェル等）
 - ③ 設備産業（SEW など）
 - ④ 現代サービス
（みずほ銀行、三菱東京 UFJ、日本製粉、オリックス）
 - ⑤ 石油化学工業（ベトロチャイナ、GWDC）
 - ⑥ バイオ産業（GSR、イボノルディスク）
 - ⑦ 飲食産業（大塚食品、健師傅、ヤクルト、コココーラー）
 - ⑧ 新エネルギー（京セラ太陽エネルギー、
 - ⑨ 航空宇宙（次世代ロケット産業化基地）
- ※健康産業はこれから



・天津技術開発区（TADA）会議室

・外資企業について

2017年11月末時点で外資企業 5639 社、うち日系企業 445 社（トヨタ、デンソー、ヤクルトをはじめ、等多数）、2016年13社進出（全体外資100社のうち）開発区には中心商务区、自由貿易区ある。

開発区から天津空港まで5km、天津空港30km、北京空港180kmの距離にある。天津港は世界300か国とつながっている。天津からヨーロッパへの鉄道があり、スタートが天津。

開発区従業員は60万人、外国人は4000人、34年間で一つの町になった。

日系社は中国向け生産している。現場ワーカー、3000元/月、保険類は給料の50%となっている。

大手は自社ビル、自社工場を持つが、中小企業はレンタル（1000～5000㎡）している。日本側より健康食品についてどんなところに治療効果ある説明ができるかとの質問に対して回答は認可してもらえばOKとのことである。



2) 10:30 中国（天津）自由貿易試験区（DFTP）、天津東疆保税区訪問

天津港は北東アジアで最大の貨物港、世界でNO. 4、毎年2.5万台以上（車）輸入している。河北、西北、北東、北東アジアへの物流センター。中国北側への海外の窓口と、位置づけられている。

経済改革開放されてから40年以上、古い開放区域である。

昨年、中国 19 回共産党大会で天津港について次の方針が出された。

- ・天津港を最大の自由貿易港へ
- ・シンガポールのような港になるよう取り組み
- ・世界レベルトップとなるように
- ・中継場所としてのメリット

メインは、自動車、冷凍食品、ヨーロッパから輸入、原材料輸入したワインは加工して第三国へ輸出。輸出の場合は税金がかからない。国内で販売する場合には税金がかかる。国内税制では内外企業とも統一されている。

・健康事業について

習近平の夢：健康の中国、養生の中国。

中国は 2.2 億人老人（60 歳以上）人口がいる、人口老化の速度は世界一となっている。今はインテリジェントの医療と養生、高度ハイテク、健康と養生センターができればと願っておられる。

・今年 5 月、第 2 回知能大会（インテリジェント大会）

介護について日本が進んでおり、先進的な技術がほしい。老人ホームを日本から輸出できるのか（日本訪問団からの質問）

→ひとつモデルをつくりたい（中国側返答）

健康産業はこれからの取り組み。

・小松社長発言

今日はいいい日だ、死ぬにはいい日だというような死に方がよい。社会問題を経営資源として、2つの商品で市場を創造した。

25 年間、盧溝橋記念館、南京虐殺記念館をはじめとして世界各国の戦争記念館を訪問し、活動を続けてきた。平和と健康はつながっている。

これに対し、先方の蔡慶鋒主任様は、人類の平和についてぜひ一緒にやりましょう。

池田大作も平和事業をやっておられ尊敬している。



東疆開発区訪問

3) 14:30 天津港視察



天津港の様子



輸入車は大量に露地に置いてある

この前の天津爆発事故はこの近くの倉庫から発生されて、このあたりに置いてあった自動車は廃車となったとのことである。

4) 15:30 天津市第三中心医院 栄養科見学（日程変更：口腔病院見学キャンセル）

患者の栄養バランス測定、栄養素が処方される。栄養剤の補充は注射、食事で行っている。

食事療法の処方は一人数ずつ処方して食堂で作る。流動食から食べ物は 1000 種類以上。栄養科スタッフ 99 名、うち医者 18 名で対応している。入院患者の状況は、3 食/日が 8 元(約 140 円)で、1000 人の食事、500 人が点滴治療を受けている。入院費は 35 元/人(部屋によって 50 ~150 元)。10 日間が入院の限度で患者の栄養状況と病状による食事療法が行なわれている。



天津市第三中心医院



栄養科 測定室



食事療法 料理場

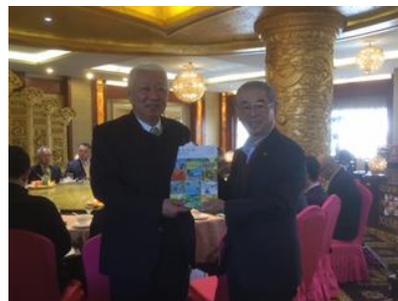
5) 17:15 南開区訪問

南開区に南開大学、天津大学をはじめ10所ある。面積40km²、128万人で、天津市内6区で最も規模の大きい区である。昔から古い店がある。100年以上歴史ある。商業が発達しており、一つショッピングセンターで2400万人利用している。26億元売上/年。南開中学校、南開大学は周恩来、温家宝元総理の母校である。北京オリンピック会場「鳩の巣」は天津大学建築学院卒業生が設計していた。



3、3日目 天津市内（1月31日）

1) 10:40 西青区縁吉医院 建設現場視察



老人ホームと一緒に併設、建設中。病院は外部へも開放。

11:30～院長趙光権様面談：

自分も老齢になり（63歳）自分が入りたい老人ホームを作ろうと考えた。

敷地 23000 km²。

・病院について、

病院ビルは地下 300m から下地を作り上げている。鉄コンクリート流し込、高さ 50 m、1 階で 5m、震度 10 以上耐える構造をしている。

建物に空中花壇作り、冷暖房、浄化水、24 時間お湯提供、上下水とごみ処理など、環境指数を守る。ほかに通信、防災措置も取る。天津の政治経済中心が次第に西南へ移している。最初の金持ちの住宅地とハイテク開発区ある富人区の人々の生活が満足されなくなった。これに応じてこれに応じてこのプロジェクトを立ち上げた。近くに日経企業があり、日本人向け診療所を設け、日本人の医者呼んで運営する予定。

ガン患者が増えており、430 万人（2015 年データ）、がんで死亡 280 万人、ガン患者で手術できない人がある。代替医療している。

・老人施設について

中老年向け、中、高級レベルの施設を作る。

63 歳になっているが、心はまだ若い。若者ができることは自分もできるようにする。趣味を大切にする。

要介護の人は1対1のサービスを提供する。

担当が随時に交換できる。入居者にお気に入り頂き、楽しく過ごすようにする。

良い食事だけではなく、活動するスペースも提供。

西青くは昔から野菜の生産地だった。園内で野菜作りもする。クリーンハウスで野菜を作る。中高齢者の健康を重視する。

投資資金3億元、病院は1.1億元、レストラン、活動スペース1000万元、医療設備1.8億元。

当ペロプロジェクトは合作方法による運営方針である。

・小松社長より

このような高齢者施設はほかにもあるか？中国全国で？世界各国にあるところと提携していたら良いアイデアが出てくるのではないか。

→回答 全国ほかのところもあるが、天津市近くにはここしかない。入居者の家族は見舞いを考えて家から10km範囲内希望されている。

小松社長より、悠久の河、その他資料を贈呈

是非島根へ来てくださいというコメントに対し、伺いますという返答。

小松社長の構想された「知的高齢者終身活動拠点__真の健康のために」と共通点がある。

2) 15:00 巷肆創意産業園見学、河北区政府関係者と会談

- ・巷肆創意産業園はイタリアから帰国したデザイン専門家が経営者している。食器、台所用品、家具など、日常用品（漆器、陶器、木材、その他材料）をデザインしたものを展示されている。市内にある洋風古い建物の広場シンボルもこの経営者の作品である。
- ・河北区は大きくないが、文化的なものがたくさんある、天津の発祥の地
- ・河北区は文化の河北ということで建設その他いろいろやっていく。
- ・歴史のものがたくさんある。歴史は600年以上大きな寺（大悲院：世界に400万以上信仰者）がある。正月の参拝、1日に20万人以上。
- ・仏教のほか、キリスト教、カトリック教、イスラム教のお寺もありこれはひとつの文化の極み。
- ・109の無形歴史文化遺産がある。国家レベルは20、天津市レベルは31か所、区レベルは60数か所。
- ・芸術「泥人形」の伝人が河北にいる。
- ・洋風建物群（過去ヨーロッパ租界地）ある。
- ・天津はアニメ産業もかなり進んでおり、海外へ輸出している。
- ・小松社長より発言

島根県から来た。

明治時代 島根県出身の西周は、フィロソフィを哲学、メカニカルアートを技術という日本語にした人物。

オリンピックの父 岸清一も島根県出身。

中国では墨子、西洋ではレオナルドダビンチ。次の新しいきっかけは墨子。山東省で墨子の記念館へ行った。その辺に次の新しい対立の文化から共生の文化をつくる重要なカギがあるのではないか。

天津は大発展をして、経済の町、港町ということで有名だがこういう活動が地道に行われていることに対して大変すばらしくぜひ我々も見習いたい。



本バー



展示場一角



河北区政府関係者と懇談

4、中国訪問4日目、2月1日【北京訪問】

1) 10:00 盧溝橋記念館訪問

- ・李館長 職員入口の正面入口の随分手前まで出てお出迎え下さる。
- ・迎賓館（習近平主席など来訪時接待された場所）に通されて歓迎の挨拶、握手
- ・李館長より挨拶

この前手術されたそうで、心配したが、本日、良い顔色しておられるのを見て安心した。

小松先生は日中両国の友好に貢献している。後輩として尊敬している。国が違っても心が通じている。

小松先生が北京に来られる度に会って交流している老朋友。はじめての皆様にも会えてうれしい。本日はじめて来られた方も小松社長と同じようにお家のように北京に来られた時、寄ってきてください。

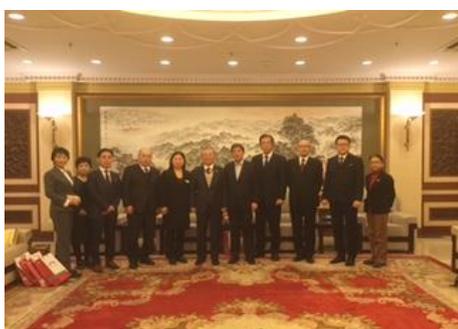
- 世界の記念館の映像を、遠隔地で見て現地に訪れたくなるようなものをつくるという提案が素晴らしい。

これに対し最初は、現在も盧溝橋記念館は作成していてwebで見ることができるという李館長の発言に対し、小松社長は、もっと迫力のある映像で考えていると発言。

実際の映像をスマートフォンで見せてくれた。

- 小松社長の、映像作成に詳しい人を紹介してもらいたい旨の発言に対し、李館長は、一旦、わかりましたという返答であったが、小松社長が更に「スピードが必要です」と発言すると春節が終わったころにはご紹介できるという李館長の返答があった。

- 李館長より、中国国内の記念館は大体そのような映像を作っている。海外の博物館はそれほどやっていないと思うが、もちろん、国際二戦博物館協会は事務局が北京にあるので、こちらで皆からデータを収集して日本へ送ると言っておられた。



2) 2月1日 15:30 北京崑崙海岸伝感技術有限公司(水計センサー)訪問

先方は、当方にとっても良い縁を感じているので、今後、小松電機に日本で販売代理になって頂きたい。



- 3) 2月1日 18:30 張可喜先生、人民東方出版媒体 吳様 王様 交流
- ・出版について
 - 2冊まとめて（経営理念手帳と張先生の本）5月末までに出版
 - 書店に並ぶのは6月中旬頃がベスト
 - 記念イベントは7月に入る前にやりたい（7月以降は政治的イベントが続く）
 - ・イベント企画案
 - ① 日中友好関係者座談会
 - ジャーナリストも招き、本の発表会を兼ねる。
 - メディア（人民日報、人民網）発表：当日同時
 - インタビュー：発表会前後
 - ② 書店（土か日がよい）でのサイン会
 - 場所 王府井書店か、西丹書店を考えている。
 - 社長スピーチ 10分程度
 - 質疑応答
 - ※一冊書籍を買ったら、
 - 手帳を一冊プレゼント
 - 中国では読書を奨励していて読書キャンペーンがある。政府主催のイベントがあるので、この時に社長の講演。
 - 社長への取材は日本語でも配信したい。
 - 共産主義青年団、日中友好協会などにも声がけし、日中友好の場にした

い。

- ③ 4、5月～10月まで読書キャンペーンにも小松社長に講演して頂くことを考えている
講演の際、本の名前を出すこと

・スケジュール

- 2月 原稿確認
3月 デザインと編集作業
4月 校正
5月 出版完成（印刷）
6月 中旬発表会&日中平和条約
提携40周年記念イベント

・小松社長の発言

人間は社会的な生き物であり、日中関係だけでなく人類の歴史上、今大きな流れの中にいる。

・張先生より

小松社長の経営について本の内容について、「小松昭夫の経営の道」か、「小松昭夫の経営記」がどれにしたらいいかと、相談され、小松社長より題名から名前をなくしてほしいとのこと

※張先生の著書内容を日本語への翻訳について社長より社外へ外注はどうか、



5、中国訪問5日目、2月2日、張可喜先生紹介「和の研究会」メンバーと懇談

- ・張先生と栗書河様（日本食レストラン経営、教育者、旅行、観光）より、食育を中国で取り組む為の計画をしている旨のお話がある。

栗様は教育においてテキストも作っているということ。

- ・張先生によると、食育という概念、取り組みを日本から初めて中国へ紹介したのは張先生とのこと。

- ・小松社長より、これは6か国協議でやったらどうかという提案。

（中国・ロシア・アメリカ、共和国、韓国、日本）。アジアから世界へ向けて発信するのに最高のテーマであり、テレビ会議も使える。人類共通のテーマであり、教育と合わせて発表しましょうと提案。



所感

中国の経済発展は、減速と指摘されているが、マンション建設、経済開発区よりの外資誘致などを、早いスピードで積極的に行っておられ、近いうち、世界一大国となるのに間

違いなと感じました。

環境改善については中国なりの方法で、短期間で汚染されていた空気を綺麗にして青空に戻していること、そして高価の落し物が無事に元に戻されることに感動的でした。

今回の北京記念館訪問では、李館長に世界の戦争平和記念館の映像を、遠隔地で見ても現地に訪れたくなるようなものをつくるという提案が素晴らしいと高く評価され、積極的に協力して下さることが確認できて何より嬉しいことです。

日中友好条約提携 40 周年に当たる本年は、両国政府と国民とも両国の友好関係を改善しようとするのが見え、今後の当社の事業展開にとって「天の時、地の利、人の和」の条件が揃ってきたのではないかと感じました。

最後、このような貴重な中国視察訪問の機会を頂き、ありがとうございます。

以上